

2025年 うぐいす組 生活発表会

「君に会えたから」



おばけ屋敷がしたい！ 9月

2学期に「お化け屋敷を作りたい！」という声があがったため、どんなお化けを作るか話し合い、グループに分かれてそれぞれ6つのお化けを作ることになりました。グループごとに作っていきため、友達と作るお化けのイメージを共有する時間を設けました。ひらがなでの記録が難しい時には、絵で表現するなど、みんながわかるような共有の仕方に工夫が見られました。その後、うぐいす会議でグループでの話をクラス全体で共有すると、他のグループの友達からもアイデアをもらうことができ、少しずつですがお化け屋敷作りが進んでいます。

頭で思い浮かべている考えをすれなく共有することは難しく、なかなか伝わらないことにもどかしさを感じている様子も見られますが、絵や言葉など様々なものを使って共有し、伝えることの大切さや伝える嬉しさを子ども達と一緒に感じながら、相手の思いを汲み取ろうとする姿勢も大切にしていきたいです。



うぐいす組おばけ屋敷ついにオープン！

9月から準備を進めてきたおばけ屋敷。ついに10月31日にお客さん呼び、第1回うぐいす組おばけ屋敷をオープンすることができました！来てもらう人を楽しんで欲しいという思いから、暗闇の迷路のように道を作り、グループごとに作った6種類のお化けがいるところでスタンプを押してもらうという、子どもたちならではの発想の「スタンプラリー型のおばけ屋敷」。おばけ屋敷を訪れた子どもたちを驚かせつつ、「ここにスタンプ押すんだよ！」とおもてなしの心も発揮するうぐいす組らしいおばけ屋敷となりました。

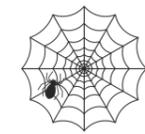


うぐいす組おばけ屋敷を終えて…

おばけ屋敷がオープンすると、それぞれで決めた係のところで役割を果たそうとする姿が多く見られました。最後のお客さんを無事に見送ると「疲れた～、けど楽しかったね」と達成感に溢れる表情が見られました。うぐいす会議でおばけ屋敷について振り返ると「楽しかった」という意見に加えて「怖くなかったって(お客さんが)言ったからもっと驚かした方が良かったんじゃない?」「おばけの服を着て、ワァ！って言えば良かったね」と改善点も出て、次回を見据えて話し合うことができました。



おばけの衣装作り



10月のおばけ屋敷の開催が終わってからも、おばけ遊びは続きます。おばけ屋敷の振り返りで出てきた「おばけの服」をさっそく作ることにしました。カラーポリ袋ははさみでは少し切りにくく苦戦しながらも形を作っていく、テープ類やマッキーペン等を使って模様をつけていきます。「ここは血みたいにしたよ」「もっと穴を開けた方がいいかも」と工夫を凝らし、かわいさも加えつつ、それぞれの素敵なおばけの衣装が完成しました。



おばけ屋敷作りを通して見えてくるもの 10月

9月から始まったおばけ屋敷作り。お化け屋敷開店の当日までに準備することを話し合うと、「おばけ作り」や「チケット作り」など、アイデアは膨らむ一方、準備しなければいけない物も増えていきます。最後まで子どもたちがあきらめずに取り組めるよう、子ども達と一緒にカレンダーを見ながら「〇日には招待できるようにしたいね」とゴールを設定し、細かく目標を共有しながら取り組んできました。理想のおばけ屋敷を作りたいからこそ「大変だ～！」という声も聞こえてきますが「来てくれた人へあげるメダルがあったらいいね」「手型の飾り付けも！」とたくさんのアイデアを出し合ってきたため、準備物も膨らんでいき、自分の得意とすることを伝え合いながら、力を合わせて一つのものを作り上げていくことを楽しんでいます。たくさんの友達と一緒にだからこそ「できない」と感じることに諦めず挑戦できる経験を重ねています。





表現することを楽しむ ～スカーフ遊び・ミラーマン・劇遊び～

2学期に入り、様々な表現遊びを楽しんできました。誰かから注目されると恥ずかしがる姿の多いうぐいすさんですが、表現遊びが始まると思いのままに体を動かしている様子が見られます。

2学期は桃太郎を題材にした劇遊びの活動をしました。まず「劇って？」という説明から始まり、桃太郎を題材に物語に合わせて登場人物になりきって表現することに挑戦しました。「恥ずかしいからやだよ～」と言っていた子も「おばあさん、川で洗濯するんだって！どうやって洗うのかな？」と声をかけると腰を下ろして、手で一生懸命洗い物をする様子を表現し「きつこうやるよね！」と友達と楽しそうに表現のアイデアを出し合っていました。

桃太郎が犬にきびだんごをあげる場面では、桃太郎役に扮する子どもたちが「自分の分が減っちゃうからきびだんごあげたくない！」と役になりきりつつも素直な気持ちを出し始め、犬役もそれに呼応するように「じゃあ、おばあさんに作ってもらおう！」とおばあさんにもらいに行くなど、実際のストーリーを超えた自分たちなりの「うぐいす桃太郎」の世界や自分らしく演じることを楽しんでいました。

表現することに恥ずかしさを感じるのも心の成長ですが、自分らしさを受け止めてもらうことや友達と一緒に楽しく表現できる！といったことを感じてくれたのではないかと思います。

スカーフ遊び



ミラーマン



劇遊び



日本一優しく、強くなった桃太郎



鬼

握手で鬼と友達に！



今日は何鬼ごっこする？ 体を動かすの大好き！

夏にはあまり外に出たがらなかったうぐいすさん。体を動かすのがあまり好きじゃないのかな？と思ったりすることもありますが、涼しくなり始めた10月頃から、積極的に外へ出ては様々な遊びを通して体を動かすことを楽しんでいます。特に最近では「鬼ごっこしよう！何鬼にする？」という声をよく聞きます。様々な種類の鬼ごっこをすることで、その遊びごとのルールを確認しながら遊びを進めています。時には、部屋の中でも楽しめる鬼ごっこ等をして、体を動かすことを楽しんでいます。

遊びの中で「こうした方がもっとおもしろい、だからこういうルールにしよう」とやってみて感じたことを友達と伝え合いながらより楽しめるようルールを工夫する姿も見られます。ただ体を動かすだけでなく、ルールを守ることで遊びが楽しくなることも感じている様子です。



リズムに合わせて…

朝の会で曲を流すと自然と体を動かし、ダンスを楽しむ姿が見られるうぐいすさん。ダンス以外にも様々な形で音に合わせて体を動かすことを楽しみたいと思い、みんなで「あんたがたどこさ」や「線路は続くよどこまでも」の曲に合わせて、リズム遊びに挑戦！歌に合わせて手拍子をしたり、歌詞の「さ」のところでだけ別の場所をタッチするところをタッチする遊びを楽しんでいます。歌のリズムに合わせて体を動かしながら、音をよく聞いて反応する姿が見られます。



おばけの物語「ひととはじめてあったおばけ」

おばけ屋敷の準備をする中で「おばけなんてないさ」を歌っていたうぐいすさんに「歌には、本当におばけが出てきたら冷蔵庫に入れてカチカチにしちゃおう！ってあるけど、みんなならどうする？」と聞いてみると、「おばけと一緒にやってみたいこと」を教えてくださいました。「おばけをディズニーランドに連れて行ってあげたい！」や「おばけに家を作ってあげたい！でもおばけのことは秘密にした方がいいからばれないように作りたい」等、意見は様々でしたが、みんなの意見に共通するものは「おばけのためにしたいこと、おばけに喜んでもらうこと」でした。目には見えない空想の何かに思いを馳せ、出会うときがあるなら楽しいことを教えてあげたい、自分が行って楽しかったところに連れて行ってあげたい、という優しく、相手を思う気持ちを子ども達からたくさん感じました。

今回の発表会は、自分の考えを大切にしながら、また友達と意見を出し合いながら「おばけがいたら」「おばけが困っていたら」という想像の世界を子ども達の豊かな発想をもとに作りました。



「君に会えたから」



おばけ屋敷を作るという同じ目標に向かって一緒に取り組むことを通して、協力すること、自分の考えを伝えること、友達の意見を聞くこと、実際にやってみる、やってみて振り返る等、たくさんの経験をしてきました。時には意見がぶつかることや自分の思い通りにならない、思いがうまく伝わらないといった困難にもぶつかりましたが、友達と一緒に取り組むことの楽しさや笑顔がたくさん見ることができました。

「1人ではできなけど、友達とならできる！」とはっきりと実感することはなかなか難しいですが、振り返ってみるとそう思う場面が何度もあったように思います。「友達がいるから、君に会えたから楽しい1日になる、笑顔が絶えない日になる」そんな素敵でかけがえのない日々を大切に子ども達と過ごしていきたいと思います。

